

変化の記録 (Record of Change)

この記録は、プロジェクトを通じて得た個人的な感想や考えをうかがうもので、プロジェクト全体の意見を代表するものではありません。また、この記録は代表者およびプロジェクト対象国・地域より各1名が作成してください。

名前	長岡 智寿子
プロジェクトでの役割	会計、および、変化の記録 作成
所属機関名	日本女子大学
役職	学術研究員

1. プロジェクト開始時の想定と現実の違い、考えられるその理由

言語や文化の違いを意識するあまり、開始当初は上手くすすめていくことができるのか、不安材料もあったが、お互いにの活動や取り組みを知れば知るほど、類似する点や同じ方向に向かって活動していることを理解するに至った。

2. 交流活動によって生まれた、自分およびプロジェクトメンバーの変化とその理由

(相手国・地域の現状や課題の捉え方、状況の改善および課題の解決に向けた発想やアプローチ方法などの変化)

日本、韓国における識字教育事業について情報交換を行った結果、教材や教育制度の仕組みなどから、各国政府がどのように関わってきているのかが明らかになってきた。例えば、韓国では夜間学校での学習活動が学歴認定として考慮されることなど、現在の日本の教育制度とは、異なる点などがあげられる。そのような異なる点の把握や理解、また、これまでの両国の歴史的経緯や活動を踏まえ、プロジェクトを展開していければと思う。

3. 1、2によるプロジェクトの変化および想定される自身や組織への影響

日本と韓国とでは社会背景は異なる部分もあれば、類似する部分も多々ある。本プロジェクトを通じて、プロジェクトメンバーのみならず、実際に夜間中学校や識字学級で学ぶ学習者の方々の交流の機会にもなればと考える。基礎教育の機会を保障し、育んでいく活動をどのように展開していくことができるのか、民間レベルにおける交流活動を通じ、互いに学び合っていきたい。

4. その他上記に含まれない点

交流プログラムを進めていく上で、予想以上に日本語、韓国語の通訳者の協力が必要となってしまうことが明らかになった。協議の結果、交流プログラムではレシーバー等を効果的に活用し、円滑にコミュニケーションを図る体制を整えていくこととなった。

名前	文鐘碩（ムン・ゾンソク）
プロジェクトでの役割	日韓プロジェクト総括企画
所属機関名	社団法人青い人々
役職	代表

1. プロジェクト開始時の想定と現実の違い、考えられるその理由

プロジェクトを進めていく過程の中でお互いに事業の内容と結果を理解していることに対して、違いがあることが分かった。しかし、プロジェクトを進めれば進めるほど、その小さな違いを通じて、両国の状況と認識の違いを理解する幅がもっと広がってきている。

2. 交流活動によって生まれた、自分およびプロジェクトメンバーの変化とその理由

（相手国・地域の現状や課題の捉え方、状況の改善および課題の解決に向けた発想やアプローチ方法などの変化）

両国の識字教育における政策交流というのは非常に意味のある事業である。しかしながら、特別に強制力がないために持続可能性に限界があると思っていたが、本プロジェクトによって、より体系的で持続可能な両国交流の場ができると予想している。特に、両国の政策状況の流れがそれぞれの立場において意義のある手掛かりを提供してくれていることをすでに感じている。自国の立場から一方的に解釈するのではなく、相互の国の状況と背景の中から理解していく方法を学び続けている。

3. 1、2によるプロジェクトの変化および想定される自身や組織への影響

韓国の識字教育の範囲が、戦争や産業化の過程で生成された50代以上の成人女性に限られた側面が既存にあったが、日本との交流を通じて移住民、学校から離脱された人々、障害者など、基礎教育を受けるべき時期に、受けられなかったもっと広い対象への識字教育を考えるきっかけとなっている。

4. その他上記に含まれない点

韓国と日本の時代状況が識字教育-基礎教育といく側面で非常に似通った発展過程を見せていることと、学習者たちの状況もまた同様であることから、韓日交流の意味をさらに重要に考えるようにしている。これからの交流を通じて変化していくことへの期待がさらに大きくなってきている。